

平成 29 年度 社会福祉法人川俣町社会福祉協議会事業報告書

1.地域を支える人づくり

(1)福祉意識の醸成

親子ふれあい福祉映画鑑賞会

(目的) 映画を通して家族の大切さについて考え、楽しみながら親子のふれあいの時間を創出する。

(実績) 平成 30 年 2 月 10 日 川俣町中央公民館ホールで開催 参加者 154 名

(評価) 川俣町青少年育成協議会と共催で事業を実施し、チラシの配布や当日の運営を共同で行った。

昨年度は大雪により参加者が 30 名という結果であったため、今年度は開催日や上映する映画の内容を川俣町青少年育成協議会と検討を重ねて実施した。その結果、154 名の方々の参加があった。今後も川俣町青少年育成協議会との連携を深め、目的が達成されるよう検討して開催していく。

各種ボランティア講座の開催（各種団体等との連携による）

① 地域福祉入門講座

(目的) 働く世代を対象に、地域にある身近な支え合い活動について知り、理解を深めるためのきっかけづくりを行う。

(実績) 平成 29 年 11 月 13 日 川俣町商工会で開催

事例発表：コープふくしま「くらしの支え合いの会」

「支え合い体験ゲーム」実施 参加者 12 名

(評価) 働く世代が実際に取り組んでいる助け合いの事例を聞き、「自分たちも何か取り組んでみたい」という感想があった。参加者の地域福祉活動に対する興味喚起に繋がった。

② ジュニアボランティア講座（川俣 KID' S / Jr. 体験プログラム）

(目的) 福祉に関する様々な体験活動を行い、福祉やボランティアへ関心を持つきっかけを作る。

(実績) 平成 29 年 8 月 10 日～11 月 11 日（全 4 回）

川俣町老人福祉センター等で開催

平成 29 年 8 月 10 日 オリエンテーション 川俣町老人福祉センター 7 名

平成 29 年 9 月 30 日 バスツアー（町外研修） 二本松市福祉センター 8 名

平成 29 年 10 月 14 日 ごみ拾いウォークラリー（町内清掃活動） 4 名

※雨天のため、なでしこ川俣施設内清掃に変更

平成 29 年 11 月 11 日 赤い羽根街頭募金活動 町内商店駐車場等 9 名

(評価) 今回申込 9 名の児童の内、5 名が以前も受講した児童であった。参加した児童からは好評である一方、新規の参加者が伸び悩んでいる。そのため、内容の見直しや周知方法について、今後の課題として検討していく。

③ ボランティアフォローアップ講座

(目的) ボランティアに対する基本の振り返りや、活動する際の心構え等について見直しを図る。

(実績) 平成 30 年 2 月 22 日（木）川俣町老人福祉センターで開催

講師：地域社会デザイン・ラボ（NPO/コミュニティアドバイザー）

代表 遠藤智栄 氏 参加者 18 名

(評価) 活動を始めたきっかけや活動していて嬉しかったことなどを改めて言語化し、活動者同士で共有することで、今後の活動に対する意欲がより高まった。

学校への講師派遣

(目的) 学校と連携し、児童・生徒の福祉意識向上を図る。

(実績) 高齢者疑似体験指導

平成 29 年 9 月 15 日 飯坂小学校へ職員 1 名派遣

ボランティア活動に関する講話

平成 29 年 7 月 5 日 富田小学校へ職員 1 名派遣

平成 29 年 9 月 25 日 飯坂小学校へ職員 1 名派遣

いきいき荘見学及び事業内容紹介

平成 29 年 9 月 17 日 川俣南小学校 6 年生 19 名来所

(評価) これまでの高齢者疑似体験指導の実績により、小学校からの高齢者疑似体験活動は通年の依頼がある。加えて、ボランティアについての講義依頼や社会福祉協議会の事業内容についての説明依頼も増加している。今後も町内の学校と福祉教育の連携を図れるよう努めていきたい。

障がい者理解の啓発

(目的) 町内授産所の円滑な運営のため、各種助成金等の情報を案内する。

(実績) 赤い羽根共同募金や助成団体の事業について案内を行った。また、町内の授産所に歳末たすけあい慰問金を贈呈した。合わせて、社協だよりにて授産所の紹介を行った。

(評価) 授産所の目的に添った助成金を案内することで、授産所の活動が活性化し、障がい者理解の啓発に寄与することができた。また、歳末たすけあい慰問金を贈呈したり、社協だよりで授産所を紹介することで、障がい者理解の啓発を図ることができた。

(2) ボランティア活動の活性化

ボランティアセンターの運営・強化 ボランティア団体への協力・支援

(目的) 住民同士の支え合い意識の醸成・強化を図る。

(実績) ボランティアセンターの運営

登録ボランティア 団体：21 団体 個人：14 名

ボランティア団体への協力・支援

① ボランティア交流会

平成 29 年 6 月 22 日 川俣町老人福祉センターで開催 参加者 24 名

② 受入施設職員情報交換会

平成 29 年 7 月 21 日 川俣町老人福祉センターで開催 参加者 3 名

ボランティア活動保険の窓口対応

加入件数 5 件

(評価) ボランティア登録団体に新規加入団体があった一方、高齢化により解散する団体があり、活動者数は現状維持となった。今後、新規啓発を進めていきたい。

2. 誰もがつながりあう仕組みづくり

(1) 地域コミュニティの形成

友愛訪問活動助成金交付事業

(目的) 川俣町老人クラブ連合会が一人ぐらしや寝たきり高齢者の方々に対して行う友愛訪問活動の活性化を図る。

(助成額) 150,000 円

(評価) 助成金を交付することで、川俣町老人クラブ連合会から単位老人クラブへ助成金が行き渡り、活動の活性化に寄与することができた。

<p>川俣町民生委員協議会への助成金交付事業</p> <p>(目的) 川俣町民生委員協議会の育成強化を図る。</p> <p>(助成額) 50,000 円</p> <p>(評価) 助成金を交付することで、民生委員活動にかかる事務消耗品等を購入することができ、活動の活性化に寄与することができた。</p>
<p>川俣町赤十字奉仕団への助成金交付事業</p> <p>(目的) 川俣町赤十字奉仕団の育成強化を図る。</p> <p>(助成額) 50,000 円</p> <p>(評価) 助成金を交付することで、奉仕団として行うボランティア活動を充実させることができ、活動の活性化に寄与することができた。</p>
<p>川俣町老人クラブ連合会への助成金交付事業</p> <p>(目的) 川俣町老人クラブ連合会の育成強化を図る。</p> <p>(助成額) 30,000 円</p> <p>(評価) 助成金を交付することで、芸能大会やスポーツ大会等の事業を充実させることができ、活動の活性化に寄与することができた。</p>
<p>川俣町身体障がい者福祉会への助成金交付事業</p> <p>(目的) 川俣町身体障がい者福祉会の育成強化を図る。</p> <p>(助成額) 40,000 円</p> <p>(評価) 助成金を交付することで、歩行訓練や芋煮会等の事業を充実させることができ、活動の活性化に寄与することができた。</p>
<p>川俣町遺族会への助成金交付事業</p> <p>(目的) 川俣町遺族会の育成強化を図る。</p> <p>(助成額) 20,000 円</p> <p>(評価) 助成金を交付することで、戦没者追悼式や慰霊祭等に参加する機会が増え、活動の活性化に寄与することができた。</p>
<p>川俣町手をつなぐ親の会への助成金交付事業</p> <p>(目的) 川俣町手をつなぐ親の会の育成強化を図る。</p> <p>(助成額) 10,000 円</p> <p>(評価) 助成金を交付することで、他市町の手をつなぐ親の会との交流が盛んになり、活動の活性化に寄与することができた。</p>
<p>川俣町社会福祉推進員活動事務費交付事業</p> <p>(目的) 川俣町社会福祉推進員に委嘱している川俣町行政区長協議会の行政区長・行政連絡員の活動に対する事務費の交付。</p> <p>(交付額) 100,000 円</p> <p>(評価) 川俣町社会福祉推進員に年 3 回の広報誌配布、社協会費の募集、赤い羽根共同募金の募集に協力していただき、町民への周知を円滑に行うことができた。その活動に対する事務費を交付することで、活動の活性化に寄与することができた。</p>
<p>川俣町民生委員協議会の運営</p> <p>(目的) 民生委員活動を円滑に実施するための事務局運営。</p> <p>(実績) 民生委員 52 名、主任児童委員 3 名に対する事務局としての運営を行った。定例会を年 12 回、支部長会議を年 2 回実施。その他事業を実施した。</p> <p>(評価) 定例会を毎月開催することで、民生委員相互の連携を図ることができた。今後も定例会や各種事業を展開し、協議会の円滑な運営に寄与していく。</p>

(2)交流の場や機会の充実

一人ぐらし高齢者のつどい

- (目的) 75歳以上の一人ぐらし高齢者が集まり、交流する機会を創出する。
- (実績) 平成29年7月24日 野地温泉ホテル(福島市)で開催 参加者28名
川俣町、川俣ロータリークラブ、川俣町赤十字奉仕団の後援により、日帰りのバス旅行を実施。スタッフ11名。保健師による健康講座を実施した。
- (評価) 今年度から対象年齢を75歳以上の一人ぐらし高齢者とし、事業開催のチラシを単位老人クラブを通じて対象者に配布するよう内容を変更した。高齢者が温泉での交流や親睦を図ることができ、参加者からは大変好評であった。しかし、チラシが届かなかったとの声も聞かれたため、今後は全ての対象者に周知することができるよう事業を実施していく。

高齢者の健康料理教室

- (目的) 75歳以上の高齢者が健康な食生活を送るため。
- (実績) 平成29年11月16日 川俣町保健センターで開催 参加者7名
- (評価) 今回は川俣町老人クラブ連合会から後援をいただき、75歳以上の高齢者を対象に事業を実施した。参加者からは大変好評であったが、参加人数が定員の20名に達しなかったため、周知方法について検討していく。

ふれあいいきいきサロンの普及・支援

- (目的) 川俣町内のサロン活動を支援することで、高齢者の孤立防止や介護予防、生きがいづくりを行う。
- (実績) サロン助成金296,000円、講師派遣事業28,500円(10件)
サロン交流会 参加者27名
平成30年3月末現在、サロン28ヶ所
サロン訪問によるレクリエーション実施等(8ヶ所)
- (評価) 新規のサロン立ち上げについて動きが見られる一方、高齢化により終了するサロンも出てきた。新規啓発と併せ、担い手の発掘及び育成による既存のサロンへの継続した支援の必要性を感じる。

一人ぐらし高齢者ふれあい会食交流会

- (目的) 75歳以上の高齢者の外出機会を増やし、仲間作りと健康保持のため。
- (実績) 平成30年3月14日 おじまふるさと交流館で開催 参加者23名
- (評価) 前年度は対象者に案内を直接通知していたが、今年度は民生委員を通じてチラシを配布した。また、参加者の利便性を踏まえ、バスによる送迎を実施したところ、町内各地区からの参加があり、大変好評であった。料理も好評で、また参加したいとの声が聞かれたため、継続して事業を実施していく。

親子ふれあい料理教室(新規)

- (目的) 小学1年生から4年生の児童及び親を対象に、親子のふれあいの時間を増やし、子どもの健全育成に寄与する。
- (実績) 平成29年12月10日 川俣町保健センターで開催
参加者23名(小学生12名、保護者11名)
- (評価) 新規事業として取り組んだ。作る品数や時間の調整などに検討の余地はあるが、参加者からも好評で、継続開催を希望する感想が多く挙がった。

(3)防災体制の充実

防災組織との関係づくりの強化

- (目的) 地震、火災、土砂災害などの災害に備え、町民の理解と協力を得ながら行政や自主防災組織等と連携し、見守り体制の充実・強化を図る。
- (実績) 町内の福祉団体と情報交換を行った。また、災害ボランティア講座を地区公民館と共催で実施した。
- (評価) 情報交換を行うことで、団体間の連携を図ることができた。今後も各種団体等との連携を深め、有事に対応できるようにする。

避難所体制の整備

- (目的) 災害が発生した際、避難所としてすぐに対応できるよう整備を行う。
- (実績) 平成 29 年 10 月 22 日 台風 21 号による大雨・強風により町が川俣町老人福祉センターを避難所として開設。避難者の受入対応及び民生委員を通じた安否確認を実施した。
- (評価) 今回の台風については職員間で連携を図り、迅速に対応することができた。今後、災害はいつ発生するかわからないため、即時対応できるよう避難所体制を整備していく。

災害対応講座の開催（地域との連携による）

- (目的) 災害対応を住民自らが主体的に捉え、災害時に起こりうる様々な状況を想定し、有事の際どのように行動すべきかを検討する。
- (実績) 平成 29 年 11 月 26 日 福沢公民館で開催
講師：日本防災士会福島県支部 藁谷俊史氏 参加者 28 名
- (評価) 福沢自治会との共催により開催。内容に関するニーズ調査や対象者への周知など、社協単独で開催するよりも、より地域の必要に応じた内容、方法で開催することができた。

3.誰もが安心して暮らせる環境づくり

(1)生活環境の整備

福祉タクシー利用者への助成

- (目的) 身体障害者福祉法に基づく 1 種 1 級及び 1 種 2 級の身体障害者手帳の交付を受けた方に対し、経済的負担軽減を図る。
- (実績) 1 枚 500 円のタクシー券を申請月に応じて月 1 枚、1 人最大 9 枚交付。対象者 360 名の内、申請者 72 名 (641 枚 320,500 円分)、申請率 21.1%、利用金額 186,920 円 (375 枚)
- (評価) 利用者の経済的負担を軽減し、移送手段の確保をすることができた。
昨年度の申請率が 12%と低調であったため、利用券の発行枚数を 6 枚から最大 9 枚に増やし、対象者にチラシを作成し、町を通じて配布したところ、申請率が増加した。利用者に大変喜ばれる結果となったため、今後も継続して事業を実施していく。

町内遊び場遊具の点検

- (目的) 子どもたちが安全に遊ぶことができる環境を保全するため。
- (実績) 町内の遊び場遊具を点検し、整備が必要な場所を町担当課に報告した。
- (評価) 社協が遊具を点検し、町が整備を行うという体制を構築することで、町との連携を強化しながら環境保全に寄与することができた。今後も定期的に点検を実施し、環境保全に努めていく。

(2)健康づくりの推進

ふれあい健康保持事業

- (目的) 高齢者が元気で生活していくため、ふれあいの機会を創出する。
- (実績) 単位老人クラブが 10 名以上で開催する温泉旅行に対し、65 歳以上の参加者、1 人年 1 回 1,000 円を助成した。申請者 489 名、助成金額 489,000 円
- (評価) 多くの高齢者に利用していただくことで、健康保持を図ることができた。利用者に大変好評であるが、前年度と比べて 71 名利用者が減少したため、周知を強化していく。

百歳賀寿祝金贈呈事業

(目的) 100歳となった方の賀寿を祝い、祝金を贈呈する。

(実績) 対象者8名、贈呈金額80,000円(1人あたり10,000円)

(評価) 川俣町の高齢化率は平成30年3月1日現在38.77%であり、今後も賀寿を迎える方が増えていくと考えられる。賀寿となった方を御祝するため、今後も継続して実施していく。

(3)福島第一原発事故からの復興

避難者の見守りや生活相談の実施(福島県社会福祉協議会委託事業)

(目的) 避難者に寄り添い日常生活を支えながら、相談に応じて必要なサービスに繋げる役割を担い、支援活動を継続していく。

(実績) 生活支援相談員3名により避難者の訪問、見守り、生活相談等を行った。

山木屋地区避難者宅への訪問 延10,321件

浪江町住民の避難者宅への訪問 延1,294件

(評価) 避難者の生活状況の改善を図ることができた。町外の高齢者世帯、また町内での住宅再建世帯については希望者のみの訪問となるが、今後も避難者への寄り添い支援、気づきの支援を継続していく。

仮設住宅でのサロン開催

(目的) 入居者の健康チェックを行い、住民同士の繋がりを図りながら、新しいコミュニティ作りを行う。

(実績) 仮設サロン10回(参加者延71名)、借上サロン5回(参加者延58名)

田代地区サロン6回(参加者延78名)、仮設・借上げお出かけサロン2回(参加者延70名)

(評価) 新しいコミュニティ作りに寄与することができた。避難解除となり、転居世帯が増えることで少人数の参加となるが、健康チェック・茶話会を含めた月1回のサロンを継続して開催していく。また、山木屋田代地区より「帰還はしたが、話し相手がいらないため、皆さんと話しをする機会がほしい」という要望があったため、10月からサロンを開催し、多数の方の参加があった。

山木屋地区住民の交流会開催

(目的) 子どもたちの意見を取り入れる機会や地域活性イベントを設けるなど、復興に向けた取り組みを目的に、地域内外の人たちに訪れてもらうことで、より地域が活性化するきっかけを作る。

(実績) 平成29年7月1日 山木屋小・中学校の児童・生徒の交流会を学校及び山木屋自治会の協力を得て開催した。絵本作家の指導のもと、ワークショップを実施し、絵画作品を制作した。

平成30年1月17日 商業施設内にて山木屋地区復興の歩みをパネルにて展示した。また、山木屋太鼓による演奏会、山木屋駐在所員による防犯講話のほか、商業施設来場者に対し、蕎麦会の会員による蕎麦の振る舞いを行った。

(評価) 7月の事業では、子どもたちが山木屋の復興・ふるさとへ思いを馳せながら今後の希望を考え、絵画作品を制作したことで、地域の活性化に寄与することができた。また、1月の事業では、山木屋地区の6年間の歩みをパネル展示することで地区の方々が集まる機会を創出することができた。今後も復興支援のため、事業を実施していく。

町外からの避難者に対する支援

(目的) 地区住民相互の新しいコミュニティ作りをする。

(実績) かわまた・なみえ交流会 6回開催(参加者延63名)

(評価) 地域住民相互のコミュニティ作りに協力することができた。参加者が少人数となり、固定化が見られるものの、健康チェックや茶話会を取り入れ、サロンを開催していく。

(4)社会参加・生きがいつくりの支援

生きがいデイサービスの運営（川俣町委託事業）

- （目的）介護認定非該当の高齢者に対し、引きこもりや孤立感の解消、家族負担軽減等のためのデイサービスを実施し、利用者の自立を支援する。また、利用者を「いきいき荘」まで送迎する外出支援サービスを実施する。
- （実績）支援員 1 名、支援補助員（外出活動支援員） 1 名により、毎週火・水・木曜日に実施。デイサービス利用者延 779 名 外出支援サービス利用者延 779 名
- （評価）利用者との交流、健康状態の確認、入浴・食事サービス、趣味活動やレクリエーションを通じ、利用者は生きがいを感じていた。今後も事業内容の質を高め、利用者の意向や満足度を把握しながら交流の場を提供していく。
また、外出支援サービスでは安全運転は勿論のこと、送迎時に家族との会話を心がけていく。

自立支援ホームヘルパー派遣（川俣町委託事業）

- （目的）介護保険非該当の自立高齢者が、自宅で安心した生活が送れるようサービスを提供する。
- （実績）ヘルパー 8 名が利用者 17 名に対し 867 時間のサービスを提供。
- （評価）サービスに入り、コミュニケーションを取りながら、不安や悩みなどを傾聴し、必要な支援をすることができた。今後も安定した生活が送れるよう、家族や行政と密に連携を取りながら、サービスを提供していく。

老人福祉センターの運営（川俣町補助事業）

- （目的）高齢者の健康増進や教養の向上、またレクリエーションなどの機会を総合的に提供する場として、老人福祉センター「いきいき荘」の入浴施設と部屋を開放する。
- （実績）風呂利用者 4,592 名 入浴料 569,800 円
いきいき荘利用券利用者 30 名
無料団体利用 134 団体 1,867 名
有料団体利用 1 団体 20 名 2,550 円
合計 135 団体 6,479 名 572,350 円
（月曜、金曜は入浴休）
- （評価）高齢者や福祉関係団体、地域団体の方々が施設を利用した。今後も利用する皆様に気持ちよく施設を利用していただけるよう、清掃・整備を実施していく。

福祉バスの運行

- （目的）社会福祉活動の増進と活動の際の交通の便を図る。
- （実績）定期バス運行回数 24 回 利用者数 10 名
社協事業による運行回数 16 回 利用者数 492 名
他団体利用による運行回数 44 回 利用者 1,221 名（実利用 19 団体）
合計 84 回 利用者数 1,723 名
- （評価）山木屋地区の避難解除に合わせ、定期バスの山木屋地区巡回を再開させた。町内全ての皆様が気持ちよく利用できるようバスの運行を実施していく。

(5)生活困窮者の支援体制の充実

生活援助資金貸付事業

- （目的）低所得世帯の一時的な資金不足を解消する。
- （実績）50,000 円上限の小口の援助資金貸付を実施。
申請 7 件、貸付決定 7 件 計 310,000 円 今年度分返済未済額 90,000 円
- （評価）資金貸付により、低所得世帯の生活を支援し、自立更正を図ることができた。また、県社協で実施している生活困窮者自立支援事業との調整を図り、困窮からの脱却ができるよう連携を図った。今後も低所得者の自立支援のため貸付を行う。

生活福祉資金貸付事業

(目的) 低所得世帯などに対し、自立のために必要な費用（資格取得のための費用）や生活費を貸付する。

(実績) 申請 1 件、貸付決定 1 件 計 70,000 円（緊急小口資金）
今年度分返済未済額 40,000 円

(評価) 償還完了者からの再貸付相談が数回あり、貸付だけでなく自立支援を並行して行う必要性を強く感じた。

高額療養費貸付事業

(目的) 高額入院費を支払うことが困難な方に対し、その費用を貸付する。

(実績) 申請 0 件

(評価) 現在では税金等の滞納により、限度額認定ができなかった方を対象として実施している。平成 29 年度は申請がなかったが、申請があった場合、対応していくこととする。

出産資金貸付事業

(目的) 出産育児一時金の支給を受けるまでの間、出産に要する費用を支払うための資金を貸付する。

(実績) 申請 0 件

(評価) 現在では健康保険から病院へ直接支払われる直接払制度により、貸付実績がない状況が続いている。

生活困窮者支援制度に関する対応

(目的) 生活困窮者の支援の目的で、県社協が受託している自立相談支援事業に協力する。

(実績) 支援調整会議を 5 回開催（延 21 名に対する支援方法を検討）

(評価) 対象者 6 名が生活の安定により支援終結、2 名が就職決定、2 名が就職活動を開始することになった。また、4 名の子どもに対して学習支援を行うこととなり、生活状況の改善が図られてきている。その他の方については生活状況の安定を図るため、支援を継続している。管内の関係機関と連携して支援をすることで、今後も自立した生活を送れる方が増えるように支援していく。

4.地域福祉を推進する連携の体制づくり

(1)相談体制の充実

心配ごと相談所の開設

(目的) 問題を抱えている方が少しでもその問題を改善することができるよう支援する。

(実績) 毎週水曜日の 9 時から 11 時に開催。相談員 2 名、相談件数 8 件。

(評価) 相談者の悩みを丁寧に聞き、相談者に寄り添った相談支援を実施することができた。解決できない相談の場合は他機関を紹介することで、問題改善へ寄与することができた。今後も、相談者の悩みを改善することができるよう、きめ細かな相談援助を実施していく。

弁護士相談会

(目的) 法律が関係する問題を抱えている方の悩みを解消する。

(実績) 平成 29 年 7 月 26 日開催。相談件数 4 件。

平成 29 年 11 月 15 日開催。相談件数 4 件。

(評価) 昨年度までは年 1 回の開催であったが、相談者の利便性を考慮し、今年度は年 2 回開催した。弁護士に相談することで、普段は解決が困難な相談者の法律に関する悩みを解決することができた。今後も法律が関係する悩みを抱えている方の解決の糸口となるよう事業を実施していく。

高齢者支援システムづくり事業（ふれあい相談員の配置）

- （目的）在宅要援護高齢者等のニーズ発見を強化する目的で民生委員を補佐する「ふれあい相談員」を配置する。
- （実績）民生委員・ふれあい相談員研修会を平成30年2月16日 おじまふるさと交流館で開催 参加者81名
- （評価）地域のニーズや課題を民生委員に繋ぐことができた。また、民生委員とふれあい相談員による研修会を開催することで、研鑽の機会とすることができた。町民の生活不安は様々なので、今後も地域の目となるよう活動を支援する。

(2)情報提供の充実

社協だより等の発行

- （目的）社会福祉協議会の事業内容やお知らせを、町民へ広報するために発行する。
- （実績）年3回発行（7月・10月・3月）
- （評価）発行頻度やページ数の関係で最新状況を広報するのが難しく、今後の検討課題である。内容については、社協だよりを見てデイサービスや配食サービスの利用につながったこともあり、広く社協の事業を紹介することができた。

社協ホームページの定期更新

- （目的）年代に応じて適切な情報ツールを用い、様々な層の町民が適切に情報を受け取れるよう、情報提供の充実に努める。
- （実績）平成27年10月よりホームページを開設し、決算情報や社協の各事業への取り組みについて、広くお知らせをしている。
アクセス件数 6,799件（平成30年3月末現在）
- （評価）幅広い年齢層に分かりやすく、見やすいホームページの更新や編成をし、今まで以上に社協の事業について理解を深めてもらうきっかけとなるよう心掛けた。今後も皆さんに閲覧していただけるようホームページを定期更新していく。

(3)福祉サービスの充実

介護者激励金の支給

- （目的）介護者の労苦をねぎらうとともに、高齢者福祉を増進する。
- （実績）対象者190名、支給金額950,000円（1人5,000円）
- （評価）激励金を支給することで、介護者の日々の労苦をねぎらう一助となることができた。介護は日々継続して行われるため、今後も事業を実施し、介護者を激励していく。

高齢者配食サービス助成事業

- （目的）高齢者に在宅で栄養バランスのとれた食事の機会提供と、その費用負担の軽減を図る。
- （実績）新川が宅配する650円の弁当を月20食まで200円補助する。登録者14名、助成金額206,400円（1,032食分）。
- （評価）高齢者の食事の質が向上し、費用負担の軽減を図ることができた。また、弁当を宅配することで、高齢者の見守りにも繋がった。

日常生活自立支援事業【あんしんサポート】（福島県社会福祉協議会委託事業）

- （目的）認知症・障がい等により日常生活上の判断に不安がある方に対し、安心した生活を送っていただくため、「福祉サービスの利用援助」「日常的金銭管理サービス」「書類等の預かりサービス」を実施する。
- （実績）契約者5名に対し生活支援員3名が年間66回の支援を実施した。
- （評価）在宅で安心した生活を送るため、支援や情報提供を行うことで、契約者の生活安定に寄与することができた。契約者それぞれに生活上の不安が違うので、寄り添いながら支援を実施していく。

訪問介護サービス利用者助成事業（川俣町補助事業）

（目的）低所得世帯（非課税世帯）が訪問介護サービスを利用した際、費用の一部を助成する。

（実績）対象者 1 名、助成総額 42,334 円

（評価）対象者は少ないが、非課税世帯にとっては利用料金の 4 分の 1 という助成金額は大きいいため、今後も継続していく。

ひとり親家庭への食事券給付

（目的）ひとり親家庭の親子と一緒に食事をするこゝで、ふれあいの時間を創出する。

（実績）中学生以下の子どもがいるひとり親家庭に 1 人 1,000 円分を 500 円の券に分けて給付。対象者 104 世帯（母子 98 世帯・父子 6 世帯）に対し、申請件数 43 件（母子世帯 42 件・父子世帯 1 件 115,000 円分）、申請率 41.3%、利用者数 40 件（107,000 円）

（評価）利用できる店を増やし、券を 500 円券に分けて給付することで、利用者の利便性を向上させることができた。申請率も前年度の 36.1%から 41.3%に増加し、これまで以上に利用した親子のふれあう機会の増加に寄与することができた。今後も対象世帯に周知して利用していただくよう事業を実施していく。

ひとり親家庭入学祝支給

（目的）ひとり親家庭の児童が川俣町立小学校に入学した際の援助激励をする。

（実績）対象児童 3 名に対し、1 人 5,000 円分の川俣町商品券及び 2,000 円分の食事券を贈呈。贈呈額は、川俣町商品券 15,000 円分、食事券 6,000 円分となった。

（評価）前年度までは現金 5,000 円を贈呈していたが、今年度から内容の見直しを図って事業を実施した。贈呈を依頼した民生委員からは、対象となった児童及び保護者がとても喜んでいと報告があった。今後も、ひとり親家庭児童の援助激励になるよう継続して事業を実施していく。

障がい者へのホームヘルパー派遣

（目的）障がいを抱えた利用者が居宅において、不安なく日常生活を営むことができるよう、必要なホームヘルプサービスを適切に提供する。

（実績）ヘルパー 8 名が利用者 10 名に対し、824 時間のサービスを提供した。

（評価）利用者が少しでも不便なく生活できるよう、支援することができた。また、体調や生活環境が悪化しないよう、コミュニケーションを取りながらサービスに入ることができた。今後も利用者が自立した生活が送れるよう、支援していく。

居宅介護支援事業所の設置・運営

（目的）要介護状態にある契約者に対し、居宅において適切な介護サービスを提供する。能力に応じて適切な保健医療サービス・福祉サービスが効果的に提供され、可能な限り自宅で生活が送れるよう支援する。

（実績）介護支援専門員 2 名で適切な介護サービスを提供した。市町村から委託を受け、要介護認定調査を 104 件実施した。また、ケアプラン作成を 1,003 件実施した。

（評価）全ての利用者に対して介護サービス計画に基づくサービスを提供することができた。今後も利用者と家族の立場に立って生活全般に寄り添い、サービスを提供していく。

災害見舞金の交付

（目的）火災や自然災害により被災した方々を御見舞する。

（実績）交付金額 20,000 円（住宅火災 1 件、被災者死亡）

（評価）被災された方が一人ぐらし高齢者であったため、ご遺族に寄り添い、御見舞をすることができた。今後も継続して事業を実施し、災害が発生した場合、即座に対応していく。

すみよし保育園の受託運営

※別紙、管理運営状況報告書のとおり。

(4)地域福祉ネットワークの構築

地域ネットワークづくり

多様化した地域の福祉課題に柔軟に対応し、効果的な地域福祉活動を推進するため、地域で活動する組織・団体間の橋渡し等を行い、地域内での団体間のネットワークづくりを行ってきた。

特に福祉関係団体である老人クラブ連合会、民生委員協議会、赤十字奉仕団、連合婦人会とは、年間を通して情報交換を行い、本会との連携を構築してきた。

地域ネットワークが広がりつつあるため、さらに連携を深めながら地域ネットワークを構築していきたい。

福祉ニーズや課題の把握

地域の福祉課題を把握し、「誰もが笑顔で元気に暮らせるまち かわまた」を目指すために活動をしてきた。

特に福祉関係団体である老人クラブ連合会、民生委員協議会、赤十字奉仕団、連合婦人会とは連携を密にし、福祉ニーズや課題の把握に努めてきた。

住民のニーズは日々変化していくので、職員は常に情報収集に努め、福祉ニーズや課題の把握に努める必要がある。

5.地域福祉を推進するための機能強化

(1)組織の強化

組織体制の強化

公共性と民間性を併せ持った地域福祉を推進する団体として、地域に開かれた組織体制を構築するため活動してきた。

資金面では、町や県社協等からの補助金・委託金により、安定的に事業を実施していくことができた。

各種事業については、内容の検討や見直しを行い、参加者や利用者に質の高いサービスを提供することができた。

合わせて、寄せられた寄附金を事業活動に充当し、一部を基金に積立することで社協の組織基盤を継続することができた。

今後も効率的な地域福祉活動を推進していくため、組織体制を強化していきたい。

職員の資質の向上

複雑・多様化する福祉ニーズに対応するため、職員一人一人が仕事に責任を持ち町民に信頼される職員となるよう、県社協主催等の各種研修会に積極的に参加し、資質を向上することができた。

今後とも町民から信頼される職員となるよう、自己研鑽に努めていきたい。

(2)財政の強化

社協会員加入の促進

(目的) 一般会員会費と特別会員会費により財政強化を図る。

(実績) 一般会員会費は川俣町行政區長、行政連絡員に依頼し、4,672世帯から1口800円を集めた。納入金額は3,217,600円(4,022世帯)、納入率は86.1%となった。特別会員会費は社協の理事・監事・評議員・民生委員13名に依頼し、職員とともに企業等186事業所から集めた。納入金額は1,301,000円。(259口×5,000円)

(評価) 一般会員会費は、依然山木屋を除く地区から募り、財政の継続を図ることができた。前年度と比較すると納入金額は47,200円減少、納入率は0.1%増加となった。特別会員会費では、震災後中止していた山木屋地区事業所への募集を再開した。新規事業所も4件の協力を得ることができ、納入金額も16,000円増加となった。今後も会費を納入していただけるよう社協事業を周知していく。

共同募金活動の実施

(目的) 共同募金、歳末たすけあい募金の募集を行い、集まった募金により各種福祉事業を実施する。

(実績) ① 共同募金 1,883,866 円 (サロン活動助成事業や各種講座の開催、災害見舞金等の共同募金配分事業に充当する)

歳末たすけあい募金 1,200,634 円 (下記の歳末慰問金贈呈事業費用)

② 歳末慰問金贈呈事業 1,240,000 円 616 名

内訳：寝たきり高齢者	400,000 円	200 名
一人ぐらし高齢者	452,000 円	226 名
知的障がい者 (児)	118,000 円	59 名
母子家庭児童	182,000 円	91 名
父子家庭児童	28,000 円	14 名
町内授産施設	60,000 円	3 カ所

(評価) 募金収入のほとんどを占める戸別募金が年々減少しており、募金の使途などをいっそう分りやすく町民へ周知し、共同募金への理解促進を図る必要性を強く感じる。また、歳末事業については、引き続き民生委員に協力していただき、慰問金贈呈時の見守りをより大切にしていきたい。

その他

福島地区電気工事協同組合川俣支部主催

一人ぐらし高齢者等住宅照明器具点検事業への協力

(目的) 福島地区電気工事協同組合川俣支部が、要援護者の安心安全を支援する目的で、一人ぐらし高齢者等の住宅を訪問し、点検や交換修理を無料で行う。社協は依頼を受け、民生委員を通じて希望者の取りまとめや連絡調整等を行う。

(実績) 平成 29 年 10 月 17 日開催 16 名の希望者に対し 10 事業者が点検を実施。

(評価) 照明器具の点検等によって要援護者の安否確認と、生活上の安心安全を支援することができた。また当日は福島警察署川俣分庁舎署員も一緒に希望者宅を訪問し振り込め詐欺防止のチラシ等を配布した。一人ぐらし高齢者からは大変好評であるため、今後も依頼があった場合、協力していく。